

昭和47年度畑作関係除草剤 試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和47年度畑作関係除草剤の試験成績検討会は、昭和47年12月5日、6日の2日間、東京（農林年金会館）において開催されたので、その結果の概要をここに紹介する。

昭和47年度に供試された畑作用除草剤の年次別推移は、第1表のとおりである。また、供

試薬剤の成分一覧は、第2表、第3表に示すとおりである。これら薬剤の試験結果の判定は、第4表に示すとおりであるが、実用化に移されたものは9作物17薬剤で、実用化とともに一部継続に移されたものは11作物23薬剤である。実用化および実・継薬剤の使用基準を示すと第4表のとおりである。

＜第1表＞ 畑作用除草剤試験の推移

	供 試 薬 剤 数						
	昭和41年度	昭和42年度	昭和43年度	昭和44年度	昭和45年度	昭和46年度	昭和47年度
A 除 草 剤							
畑作物一般	12	6	9	7	11	5	10
陸 稲	14	10	11	9	9	6	3
麦 類	4	2	4	4	2	—	3
とうもろこし	4	3	4	6	8	13	4
甘 藷	9	3	5	4	5	3	3
馬 鈴 薯	1	0	3	4	8	11	13
さとうきび	1	1	0	0	1	2	1
大 豆	10	3	4	14	8	12	10
小 豆	4	3	1	7	5	6	4
菜 豆	1	3	5	6	8	9	5
落 花 生	5	7	4	12	9	12	5
てんさい	4	9	5	6	6	6	5
そ の 他	2	3	1	3	1	7	3
B マルチ除草剤							
稲	—	—	12	4	5	—	—
早 堀 甘 藷	—	—	—	1	2	2	—
とうもろこし	—	—	1	2	2	—	—
落 花 生	—	—	—	1	2	3	2
そ の 他	—	—	1	2	6	2	—
C 転換畑用除草剤	—	—	—	—	—	6	—
合 計	71	53	63	92	98	104	71

＜第2表＞ 昭和47年度畑作関係作用性試験供試除草剤成分一覧表

I 新除草剤定性スクリーニング試験

対象作物	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委 託 会 社
1) 畑 作 一 般	1. MON-39	乳 剤	N-(フォスフォノメチル)グリシン・ イソプロピルアミン塩 36%	日本モンサント
	2. SKH-11	水和剤	未公開 50%	シエル化学
	3. USB-84	乳 剤	新規化合物 20%	インターナショナル・ケ ミカル・インダストリー (I.C.I.)
	4. B-51	乳 剤	未公開 50%	クミアイ化学
	5. KB-907	乳 剤	未公開(B-51) 20% S-(2-クロロベンジル)-N,N- ジエチルチオールカーバメイト (B-56) 40%	クミアイ化学
	6. IX-13	水和剤	未公開 40%	石原産業

II 作用特性試験

対象作物	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委 託 会 社
1) 畑 作 一 般	1. MK-616	水和剤	未公開 50%	三菱化成
	2. NK-266	乳 剤	2-クロル-4-メチルスルフィニル- 4-ニトロジフェニルエーテル 20%	日本化薬
	3. NC-U	水和剤	新規化合物 90%	日本カーバイド
	4. USB-84	乳 剤	未公開 25%	インターナショナル・ケ ミカル・インダストリー
	5. B-51	乳 剤	未公開 50%	クミアイ化学
	6. トリブニール	水和剤	1,3-ジメチル-3-(2-ベンゾチアゾ ール)ウレア 70%	日本特殊農薬
2) 畦畔雑草対象	1. MON-39	乳 剤	N-(フォスフォノメチル)グリシン・ イソプロピルアミン塩 36%	日本モンサント
	2. S-04	水和剤	3-イソプロピル-2,1,3-ベンゾチ アジアジノン-2,2-ジオキサイド 50%	住友化学

III 移動性・残効性試験

MON-39, VCS-438, NP-17, SKH-01, B-51, KB-907, B-56, R-7465

＜第3表＞ 昭和47年度畑作関係適用性試験供試除草剤成分一覧表

A 除 草 剤

対象作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	委 託 会 社
1) 陸 稲	1. N K - 2 6 6	水和剤	2-クロル-4-メチルスルフェニル 4 ¹ - ニトロジフェニルエーテル 5.0%	日 本 化 薬
	2. N K - 2 6 6	乳 剤	同 上 2.0%	日 本 化 薬
	3. G - 3 1 5	水和剤	5-ターシャリブチル-3-(2,4ジクロ ル-5-イソプロピルオキシフェニル)- 1,3,4-オキサジアゾール-2-オン 5.0%	日 産 化 学
2) とうもろこし	1. B-3015, プロメトリン	乳 剤	S-(4-クロルベンジル)N, N-ジエ チルチオールカーバメート(ペンチオカー ブ) 5.0% 2-メチルチオール-4,6-ビスイソプロピル アミノS-トリアジン(プロメトリン) 5%	ク ミ ア イ 化 学
	2. エ ブ タ ム	粒 剤	エチル-ジ-ノルマルプロピルチオカーバ メート 5%	北 海 三 共
	3. S K H - 0 1	水和剤	2-(4-クロル-6-エチルアミノ-エ ストリアジン-2-イルアミノ)-2- メチル-プロピオニトリル 5.0%	シ エ ル 化 学
	4. S L D - 6 9 5	水和剤	3-(3,4-ジクロルフェニル)-1-メ トキシ-1-メチルウレア(リニュロン) 7.5% イソプロピル-N-(3-クロロフェニル) カーバメイト(クロロIPC) 17.5%	石 原 産 業
3) 甘 藷	1. R - 7 4 6 5	水和剤	2-(α -ナフトキシ)-N, N-ジエチ ルプロピオアמיד* 5.0%	日 本 農 薬
	2. N K - P	粒 剤	トリアジン系 1.5%	日 本 化 薬
	3. クレダジン, リニュロン	微粒剤	3-(2-メチルフェノキシ)ピリダジン (クレダジン) 2.5% 3-(3,4-ジクロルフェニル)-1-メ トキシ-1-メチルウレア(リニュロン) 1.5%	三 共
4) 馬 鈴 薯	1. CIPC* アラクロール	乳 剤	イソプロピル-N-(3-クロロフェニル- カーバメート(CIPC) 21.5% 2-クロル-2',6'-ジエチル(メトキシ メチル)アセトアニリド* 21.5%	三 菱 モ ン サ ン ト 日 産 化 学
	2. R - 7 4 6 5	水和剤	甘藷の項参照 5.0%	日 本 農 薬
	3. HOK-717	乳 剤	N, N-ジ(2-クロルエチル)-4-メ チル-2,6-ジニトロアニリン 3.6%	北 興 化 学
	4. リニュロン(ロッ クス)	粒 剤	3-(3,4-ジクロルフェニル)-1-メ トキシ-1-メチル尿素 1.5%	丸 和 物 産
	5. M K - 6 1 6	水和剤	未公開 5.0%	三 菱 化 成

対象作物	薬 剤 名	剤 型	有効成分および含有率	委 託 会 社
4) 馬 鈴 薯 (つづき)	6. NTN-7170	水和剤	4-アミノ-6-ターシャリブチル-3- -(メチルチオ)-1,3,4-トリアジン -5-オン 70%	日本特殊農薬
	7. HW-24	乳 剤	ジフェニルエーテル系 25%	保土谷化学
	8. クロレートソーダ	水溶剤	塩素酸ナトリウム 98%	北海三共 昭和電工
	9. MCC	水和剤	メチル-N-(3,4-ジクロロフェニル) カーバメート 40%	スエップ普及会 (日産化学)
	10. SLD-695	水和剤	とうもろこしの項参照 7.5+17.5%	石原産業
	11. TO-2	水和剤	5-クロル-4-メチル-2-プロピオン アミドチアゾール 50%	三井東圧
	12. SKH-01	水和剤	とうもろこしの項参照	シエル化学
	13. VCS-438	水和剤	2-(3,4-ジクロロフェニル)-4- メチル-1,2,4-オキサジアゾリン3 -5-ジオン 75%	日本曹達
5) て ん さ い	1. CIPC・ アラクロール	乳 剤	馬鈴薯の項参照 21.5+21.5%	三菱モンサント 日産化学
	2. CIPC・ アラクロール	乳 剤	同 上 21.5+21.5%	三菱モンサント 日産化学
	3. レナパック	水和剤	3-シクロヘキシル5,6-トリメチレン ウラシル(レナシル) 40% 1-フェニル-4-アミノ-5-クロル ピリダゾン (PAC) 30%	丸和物産
	4. B-56	乳 剤	カーバメート系 50%	クミアイ化学
	5. SLD-695	水和剤	とうもろこしの項参照 7.5+17.5%	石原産業
6) 落 花 生	1. G-315	水和剤	陸稲の項参照 50%	日産化学 北興化学
	2. NK-P	粒 剤	甘藷の項参照 1.5%	日本化薬
	3. NK-266	乳 剤	陸稲の項参照 20%	日本化薬
	4. NK-266	水和剤	同 上 50%	日本化薬
	5. SKH-01	水和剤	とうもろこしの項参照 50%	シエル化学
7) 大 豆	1. CIPC・ アラクロール	乳 剤	馬鈴薯の項参照 21.5+21.5%	日産化学 三菱モンサント
	2. NK-266	乳 剤	2-クロル-4-メチルスルフィニル4- ニトロジフェニルエーテル 20%	日本化薬
	3. B-3015・ プロメトリン	乳 剤	S-(4-クロルベンジル)N,N-ジ エチルチオールカーバメイト(ベンチオ カーブ 50% 2-メチルチオ-4,6-ビスイソプロピ ルアミノS-トリアジン(プロメトリン 5%)	クミアイ化学

対象作物	薬 剤 名	剤 型	有効成分および含有率	委 託 会 社
7) 大 豆 (つづき)	4. MK-616	水和剤	未公開 50%	三 菱 化 成
	5. NK-266・ プロメトリン	水和剤	2-クロル-4-メチルスルフィニル-4 ^L - ニトロジフェニルエーテル(NK-266) 50% 2-メチルチオ-4,6-ビス(イソプロピ ルアミノ)-S-トリアジン(プロメトリ ン 5%	日 本 化 薬
	6. B-56	乳 剤	カーバメート系 50%	クミアイ化学
	7. HW-24	乳 剤	ジフェニルエーテル系 25%	保 土 谷 化 学
	8. NK-266・A	水和剤	2-クロル-4-メチルスルフィニル-4 -ニトロジフェニルエーテル(NK-266) 50% 2-クロル-2',6'-ジエチル(メトキシ メチル)アセトアニリド 5%	日 本 化 薬
	9. C N P	乳 剤	2,4,6-トリクロルフェノール-4 ^L -ニト ロフェニルエーテル	三 井 東 圧
	10. KB-907	乳 剤	B-51(未公開) 20% S-(2-クロロベンジル)-N,N-ジ エチルチオルカーバメイト(B-56) 40%	クミアイ化学
8) 小 豆	1. CIPC・ アラクロール	乳 剤	馬鈴薯の項参照 21.5+21.5%	クミアイ化学
	2. SLD-695	水和剤	とうもろこしの項参照 7.5+17.5%	石 原 産 業
	3. B-3015・ プロメトリン	乳 剤	とうもろこしの項参照 50+5%	クミアイ化学
	4. R-7465	水和剤	甘藷の項参照 50%	日 本 農 薬
9) 菜 豆	1. CIPC・ アラクロール	乳 剤	馬鈴薯の項参照 21.5+21.5%	三菱モンサント 日 産 化 学
	2. R-7465	水和剤	甘藷の項参照 50%	日 本 農 薬
	3. SLD-695	水和剤	とうもろこしの項参照 7.5+17.5%	石 原 産 業
	4. B-3015・ プロメトリン	乳 剤	とうもろこしの項参照 50+5%	クミアイ化学
	5. HSW-7201	水和剤	CIPC+尿素系 30+4%	北 海 三 共
10) ホ ッ プ	1. M C C	粒 剤	馬鈴薯の項参照 15%	スエップ普及会 (日産化学)
	2. M C C	水和剤	同 上 40%	スエップ普及会 (日産化学)
11) 麦	1. NP-17	水和剤	ウレア系 70%	日 本 曹 達
	2. B-56	乳 剤	カーバメート系 50%	クミアイ化学

対象作物	薬 剤 名	剤 型	有効成分および含有率	委 託 会 社
11) 麦 (つづき)	3. T O - 2・D	水和剤	5-クロル-4-メチル-2-プロピオン アミドチアゾール 50 % 2,4-ジクロロフェノール酢酸(Na) 10 %	三 井 東 庄
12) さとうきび	1. S S H - 3 6	液 剤	アイオキシニル誘導体とアシュラムの混剤 23 %	塩 野 義 製 薬
13) こんにゃく	1. N C - U	水和剤	新規化合物 90 %	日本カーバイド

B マルチ除草剤

対象作物	薬 剤 名	剤 型	有効成分および含有率	委 託 会 社
1) 落 花 生	1. リ ニ ュ ロ ン	粒 剤	3-(3,4-ジクロロフェニル)-1- メトキシ-1-メチルウレア 1.5 %	丸 和 物 産
	2. N I P	乳 剤	2,4-ジクロロフェニル-4'-ニトロフェ ニルエーテル 25 %	三 洋 貿 易

< 第 4 表 > 昭和 47 年度畑作関係除草剤実用化判定表

A 除 草 剤

区 分	実 用 化	実 ・ 継	継 続	継 ？	中 止
1) 陸 稲	NK-266 乳 G-315 水和	NK-266 水和			
2) とうもろこし	SLD-695 水和 SKH-01 水和	B-3015・ プロメトリン 乳	エブタム 粒		
3) 甘 藷		R-7465 水和 クレダジン・ リニュロン微粒	NK-P 粒		
4) 馬 鈴 薯	SLD-695 水和 M C C 水和	クロロIPC・ アラクロール 乳 SKH-01 水和 MK-616 水和 VCS-438 水和 NTN-7170 水和 TO-2 水和 クロレートソーダ	Linuron 粒 HW-24 乳 R-7465 水和 HOK-717 乳		
5) て ん さ い	SLD-695 水和 (移植) レナバック 水和 (移植)	クロロIPC・ アラクロール 乳 (移植) クロロIPC・ アラクロール 乳 (直播)	B-56 乳		
6) 落 花 生	G-315 水和 SKH-01 水和	NK-266 乳 NK-266 水和	NK-P 粒		
7) 大 豆		NK-266 乳	B-56 乳		

区 分	実 用 化	実 ・ 継	継 続	継 ？	中 止
7) 大 豆 (つづき)	B-3015・ プロメトリン 乳 M O	NK-266・ プロメトリン水和 NK-266・A水和 クロロIPC・ アラクロール 乳 HW-24 乳	MK-616水和 KB-909 乳		
8) 小 豆	SLD-695水和	クロロIPC・ アラクロール 乳	R-7465水和		B-3015・ プロメトリン 乳
9) 菜 豆	SLD-695 B-3015・ プロメトリン 乳	クロロIPC・ アラクロール 乳	R-7465水和 HSW-7021 乳		
10) ホ ッ プ	M C C 水和 M C C 粒				
11) さとうきび		SSH-36 液			
12) 小 麦			B-56 乳 TO-2D水和 NP-17水和		
13) こんにゃく			NC-U水和		

B マルチ除草剤

区 分	実 用 化	実 ・ 継	継 続	継 ？	中 止
1) 落 花 生			リニロン・NIP		

A 除 草 剤 <第5表> 昭和47年度畑作関係除草剤実用化薬剤使用基準

	薬 剤 名	剤 型	判 定	処 理 方 法	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	適 用 地 帯	備 考
1. 陸 稲	NK-266	乳	実	土壌処理	播 種 後	(成分) 40~60g/a	全 土 壤	寒地を除く全域	
	NK-266	水和	実・継	土壌処理	播 種 後	(成分) 40~60g/a	全 土 壤	温 暖 地	地域拡大 関東再確認 (必試)
	G-315	水和	実	土壌処理	播 種 後	(成分) 5~7g/a	火山灰土壌	寒地除く全域	
2. と う も ろ こ し	SKH-01	水和	実	土壌処理	播 種 後	(成分) 10~20g/a	全 土 壤	暖地を除く全域	
	SLD-695	水和	実	土壌処理	播 種 後 出 芽 前	(製品) 30~35g/a	全 土 壤	寒地, 寒冷地及 び温暖地, 中部 高冷地	寒地は出芽前が 望ましい
	B-3015・ プロメトリン	乳	実・継	土壌処理	播 種 後	(製品) 80~100g/a	全 土 壤	寒 地	地域拡大

	薬剤名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使用量	適用土壌	適用地帯	備 考
3. 甘 し ょ	R - 7 4 6 5	水和	実・継	土壌処理	挿 苗 後	(製品) 30～40g/a	全 土 壤	温暖地, 暖地	効果の再確認
	クレダシ・ リニユロン	微粒	実・継	土壌処理	挿 苗 前 後	(製品) 400～600g/a	全 土 壤	温暖地, 暖地	効果の再確認(必試) 増量検討 暖地: クレダシ ン20%増量
4. 馬 鈴 薯	クロロIPC・ アラクロール	乳	実・継	土壌処理	植 付 後 10～15日	(製品) 20～25g/a	全 土 壤	寒 地	再確認(必試) 処理時期の検討
	S K H - 0 1	水和	実・継	土壌処理	植 付 後 15日	(成分) 10～20g/a	全 土 壤	寒地を除く全域	地域拡大 寒地 植付後～15日 ご検討
	S L D - 6 9 5	水和	実	茎葉兼土壌 処理	萌 芽 前	(製品) 30～35g/a	全 土 壤	寒地, 寒冷地及 び温暖地, 中部 高冷地	
	M K - 6 1 6	水和	実・継	土壌処理	植 付 後	(成分) 4～8g/a	全 土 壤	寒地, 寒冷地, 暖地(暖地は春 秋作とも)	萌芽直前はさける 寒地再確認(必 試), 地域拡大
	V C S - 4 3 8	水和	実・継	土壌処理	植 付 後	(製品) 20～25g/a	全 土 壤	寒 冷 地	萌芽直前はさける 地域拡大(特に 寒地へ)
	NTT- 7 1 7 0	水和	実・継	土壌処理	萌 芽 前	(成分) 5～7g/a	全 土 壤	寒 地	再確認(必試) 地域拡大 萌芽期以後への 使用幅拡大
	M C C	水和	実	土壌処理	植付後萌芽 前(雑草発 生前)	(成分) 40～50g/a	全 土 壤	温暖地以北	
	T O - 2	水和	実・継	茎葉兼土壌 処理	萌 芽 直 前	(成分) 20～30g/a	全 土 壤	寒 地	再確認(必試) 地域拡大 点数不足
	クロレートソーダ		実・継	茎葉処理	収 穫 前 10～14日	(製品) 300～500g/a	全 土 壤	寒 地	再確認(必試) 後作小麦への影 響および残効
5. て ん さい	クロロIPC・ アラクロール (移植)	乳	実・継	土壌処理	移 植 直 後 ～15日	(製品) 20～25g/a	全 土 壤	寒 地	再確認(必試) 薬害の検討
	同 上 (直播)		実・継	土壌処理	播 種 後	(製品) 20～25g/a	全 土 壤	寒 地	再確認(必試) 薬害の検討

	薬剤名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使用量	適用土壌	適用地帯	備 考
5. てんさい	S L D - 6 9 5 (移植)	水和	実	土壌処理	移 植 前	(製品) 40～50g/a	全 土 壤	寒 地	ハンド・プランター を用いる
	レ ナ パ ッ ク (移植)	水和	実	土壌処理	移植直後 ～活着後	(成分) 20～30g/a	全 土 壤	寒 地	
6. 落 花 生	N K - 2 6 6	乳	実・継	土壌処理	播 種 後	(成分) 40～60g/a	全 土 壤	温 暖 地	地域拡大
	N K - 2 6 6	水和	実・継	土壌処理	播 種 後	(成分) 40～60g/a	全 土 壤	温 暖 地	地域拡大 関東再確認(必試)
	G - 3 1 5	水和	実	土壌処理	播 種 後	(成分) 3～7g/a 暖 地3～5 温暖地5～7 が望ましい	全 土 壤	温暖地, 暖地	
	S K H - 0 1	水和	実	土壌処理	播 種 後	(成分) 10～20g/a	全 土 壤	温暖地, 暖地	
7. 大 豆	N K - 2 6 6	乳	実・継	土壌処理	播 種 後	(成分) 40～60g/a	全 土 壤	温暖地以北	地域拡大 寒地再確認(必試)
	NK-266・ プロメトリン	水和	実・継	土壌処理	播 種 後	(製品) 60～80g/a	全 土 壤	寒地, 寒冷地	再確認(必試) プロメトリン増量 検討
	NK-266・A	水和	実・継	土壌処理	播 種 取	(製品) 50～60g/a	全 土 壤	温暖地以北	再確認(必試) アラクロール増量 検討
	クロロIPC・ アラクロール	乳	実・継	土壌処理	播 種 後	(製品) 20～25g/a	全 土 壤	寒 地	再確認(必試) 薬害の検討
	B-3015・ プロメトリン	乳	実	土壌処理	播 種 後	寒地(製品) 80～100g/a その他(製品) 60～80g/a	全 土 壤	全 域	
	H W - 2 4	乳	実・継	土壌処理	播 種 後	(成分) 15～20g/a	全 土 壤	寒地, 寒冷地	再確認(必試)
	M O	乳	実	土壌処理	播 種 後	(成分) 25～30g/a	全 土 壤	寒地を除く全域	特に碎土をていね いにする
8. 小 豆	クロロJPC・ アラクロール	乳	実・継	土壌処理	播 種 後	(製品) 15～20g/a	全 土 壤	寒 地	再確認(必試) 薬害の検討
	S L D - 6 9 5	水和	実	土壌処理	出 芽 前	(製品) 25～30g/a	全 土 壤	寒 地	
9. 菜 豆	クロロIPC・ アラクロール	乳	実・継	土壌処理	播 種 後	(製品) 20～25g/a	全 土 壤	寒 地	再確認(必試) 薬害の検討
	S L D - 6 9 5	水和	実	土壌処理	出 芽 前	(製品) 25～35g/a	全 土 壤	寒 地	

	薬剤名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使用量	適用土壌	適用地帯	備考
9. (つづき)	B-3015・ プロメトリン	乳	実	土壌処理	播種後	寒地(製品) 60~100g/a 寒地(製品) 60~80g/a	全土壌	寒地, 寒冷地	
10. ホ ッ プ	M C C	水和	実	土壌処理	培土後	(成分) 40~50g/a	全土壌	寒冷地及び温暖 地中部高冷地	
		粒	実	土壌処理	培土後	(成分) 60~90g/a	全土壌	寒冷地及び温暖 地中部高冷地	
11. さ と う き び	SSH-36	液	実・継	土壌処理 茎葉処理	植付直後 雑草3~4 L期	土壌処理 (製品) 160~180g/a 茎葉処理 (製品) 140~160g/a	全土壌	暖地	再確認(必試) 株出して検討 粒剤化希望

植調協会だより

農薬土壌残留量分析委員会

◎ 会議開催日程

農薬残留量分析委員会(既登録農薬)

会議の名称	開催期日	場 所
既登録農薬残留量分析結果報告書審査会(47年度第8回)	昭和48年6月 19~20日	日本都市センター 第7会議室
同上(47年度第9回)	昭和48年9月 27~28日	同上 第5会議室

会議の名称	開催期日	場 所
土壌残留量分析結果報告書審査会(47年度第9回)	昭和48年5月 17~18日	日本都市センター 本館第6会議室
同上(47年度第10回)	昭和48年7月 19~20日	同上 本館第7会議室
同上(48年度第1回)	昭和48年9月 20~21日	同上 本館第5会議室

編 集 後 記

啓蟄……冬眠中の虫がめざめる……季節を迎えると、休眠中の植物も活動しはじめる。

茎葉兼土壌処理型除草剤のうちで、芝生に対して登録している薬剤のなかで、芝の出芽前に処理することにより芝に対する薬害をさけ、芝生の間から発生する一年生および多年生雑草を防除する薬剤がある。

使用法の確立するための各種試験のなされたなかで、すぐれたアイデアである。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和48年3月発行

第6巻第12号

¥90(送料50)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番